

新学習指導要領とこれからの出前授業

福士道太¹⁾

The new educational guidelines and creating the delivering classes

Dohta Fukushi

Key Word：出前授業，学校教育，小学校，学習指導要領，社会，昔の暮らし，古い道具

1 はじめに

当館で実施している「出前授業」は依頼者のニーズに合わせた効果的な資料を学校に持参し、解説及び体験活動を行うもので、年間80件前後の実績がある。その中で、一番多いテーマが小学校3年生を対象とした社会科「古い道具と昔の暮らし」である。大小60点ほどの資料を用意し、資料自体の理解だけでなく、資料を通して人々の暮らしの知恵や工夫について具体的に学ぶことを目標としている。資料は衣食住の3つのコーナーに分けて展示し、前半はコーナー毎の資料の解説、後半は体験活動とし、45分×2コマを基本に実施してきた。子どもたちにとってわかりやすい解説を心掛けるとともに実際に資料に触れる体験を設定することから、一定の好評を得ている。

一方で、「答え」だけを伝える知識教授型の解説に偏っていたり体験が単なる「遊び」の時間になったりすることもたびたび見受けられることもあった。また、約10年ぶりに学習指導要領が改訂され、目標や内容が大きく見直されてより一層主体的で対話的な深い学びの実践が求められている。

そこで、新学習指導要領を踏まえながら、子どもたちがじっくりと想像や思いをめぐらせ、主体的・対話的に学習できる時間とするために授業の工夫・改善が必要であると考えた。ここでは、今年度試行錯誤しながら実践した「古い道具と昔の暮らし」の出前授業について報告する。

2 現行・新学習指導要領について

本テーマの学習は小学校学習指導要領の以下の部分を受けたものである。

(現行)

1 目 標

- (2) 地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
- (3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

2 内 容

- (5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

(新)

目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

¹⁾ 青森県立郷土館 研究主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目 8-14)

内容

(4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたこと。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

大きな変更点として挙げられる部分として、現行の内容(5)について、「昔の道具や暮らし」の内容を地域の歴史が分かる内容「市の子の移り変わり」となり、「県内の伝統や文化、先人の働き」第4学年の内容として分けられたこと、「地域の人々の生活の変化」から「市の子の移り変わり」に文言が変更されたことが本単元にかかわる着目すべき点である。

また、総説では今回の改訂の基本方針として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について触れられており、子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を推進することを提唱している。

3 出前授業改良のポイント

新学習指導要領を踏まえ、既存の出前授業を改良した内容は以下の3点である。

(1) どんな資料(道具)なのか予想する時間の追加(資料との出会い⇒ゆらぎ・疑問)

ワークシートに載っている資料(道具)を見つけ出し、その道具の用途や今の道具に置き換えると何かなどについて実際に触れたり動かしたりしながら自由に予想し記入させる。

(2) 予想を元にした対話型の解説(対話性・主体性)

子どもたちの予想を発表させながら一つひとつの道具に関連付けて解説していく。単なる答え合わせにならないように留意する。

(3) 体験の言語化

昔の道具を実際に使ってみている子どもに「この道具の工夫されているところはどこですか?」、「使ってみてどんな感じですか?」など発問をし子どもたちなりの言葉で言語化させることで、人々の願いや昔の人の知恵・工夫、努力・苦労などを体感的且つ具体的に理解させる。

4 実践結果

《既存プログラムと比較した子どもたちの様子》

- ・解説を聞く前の段階で、実際に持ってみたり触ってみたりすることで、資料(道具)を視覚だけでなく、より多面的に観察することができていた。
- ・多面的な観察によって資料への興味・関心が高まり疑問が生まれ、意識的に解説を聞く姿勢になり話合いも深いものとなった。
- ・体験の中で発問することで、漠然とした単なる楽しい体験ではなく昔のことを具体的に想像することができていた。
- ・事後の学習内容が深まり感想の記述量が多くワークテストの点数も良かった。
- ・最初に観察、予想することでその後の解説を集中して聞くことができ理解が深まっていた。

《既存プログラムの経験がある先生方のご意見》

- ・子どもたちの学習意欲が確実に高まっていた。
- ・子どもたちが自分のペースで資料を観察できる時間がとても良かった。
- ・最初に観察、予想することでその後の解説を集中して聞くことができ理解が深まっていた。

5 学習指導案

出前授業 小学校3年社会科「古い道具と昔の暮らし」

授業時間の目安…90分

ねらい

古い道具を通して昔の人々の知恵や工夫に気付くとともにそれを手掛かりに、市や人々の生活の様子を捉える。

郷土館の手立て

- ・各道具の用途や現在の道具に置き換えるとしたら何かなど自由に予想させる。
- ・昔の生活を、実物の提示と実演で昔の道具の使い方や不便な暮らしぶりを解説する。
- ・より便利に、より快適にという人々の願いをうけて道具が変わっていったことや、便利さと引き換えに失ったものがあることなどにも触れ、昔の生活の良いところにも気づかせる。
- ・道具の名前や使い方だけでなく使い勝手や工夫を確かめさせるための体験活動を行う。

本時の学習活動

教師の働きかけと児童の活動	郷土館職員の動きと留意点
1. あいさつとめあての確認	
昔の人々の知恵や工夫について、話を聞いたり実際に体験したりして発見しよう。	
2. どんな道具なのか予想する。	・各コーナーでワークシートを配布し見守る。 ・必要に応じて取り扱いの補助をする。
3. 道具の実演と解説を見聞きする。 【衣生活コーナー】 「昔の着物、洗濯」について解説を聞く。 ・麻の着物の工夫 ・洗濯板とアイロンの秘密 【食生活コーナー】 「昔の調理用具、食器」についての解説を聞く。 ・炊飯の歴史 ・保存の歴史 ・お膳から飯台へ ・今と昔の弁当箱比べ 【住生活コーナー】 「電気・ガス・水道がない暮らし」についての解説を聞く。 ・いろりの働きやその他の照明・暖房器具 ・自在鉤や安全行火に見られる工夫の発見 ・天秤棒を使った水桶の持ち方	・資料の解説をする。（予想を生かした対話型） 【衣生活コーナー】 ・刺し子の工夫や、洗濯板には洗いとすすぎの向きがあること、電気の代わりに炭を使ってアイロンをかけていたことなどを解説する。 【食生活コーナー】 ・炊飯は、薪→ガス・電気と便利になっていくが、反面味が落ちていったことにふれる。 ・調理用具や食器に見られる変化や工夫を発見させる。（わっぱ・つば釜・かまど・氷冷蔵庫等の観察） 【住生活コーナー】 ・薪や炭、ろうそくが電気や灯油の代わりを果たしていたことを伝える。（いろり・あんか・こたつ等の観察）
4. 体験活動 ・天秤棒を担ぐ ・洗濯板での洗濯 ・麻の服を着る ・石臼で大豆を挽く ・エンツコに入る・・・など	・発問することで各道具に見られる工夫されている点や今と比べて違う点など言語化させる。 ・児童からの質問に答える。
5. 学習のまとめと感想発表	

6 ワークシート

小学中低学 古い道具と物のくらし ～「煮」のコーナー～

昔はどんな道具を使ってどんなくらしをしていたのでしょうか。

用意するための道具は？

使った感じや味は？

今の道具は？






「煮」のコーナーには他にどんなものがあったかな？











古い道具から、昔の人たちの「ちえ」や「くふう」「節か」や「くろう」を覚えてみましょう。



小学中低学 古い道具と物のくらし ～「煮」のコーナー～

昔はどんな道具を使ってどんなくらしをしていたのでしょうか。

用意するための道具は？

使った感じや味は？

今の道具は？






「煮」のコーナーには他にどんなものがあったかな？











古い道具から、昔の人たちの「ちえ」や「くふう」「節か」や「くろう」を覚えてみましょう。



小学中低学 古い道具と物のくらし ～「煮」のコーナー～

昔はどんな道具を使ってどんなくらしをしていたのでしょうか。

用意するための道具は？

使った感じや味は？

今の道具は？






「煮」のコーナーには他にどんなものがあったかな？










古い道具から、昔の人たちの「ちえ」や「くふう」「節か」や「くろう」を覚えてみましょう。



7 おわりに

2時間の出前授業は約7～8時間を要する一つの単元の一部に組み込まれ、出前授業自体が独立して学習する単元ではない。概ね「調べる」という学習段階での利用となり、考えを深めたり意見を出し合ったりする時間が単元全体を通して確保されていれば、出前授業の時間はなるべく多くの資料を丁寧に紹介するというに特化しても良いと考えていた。また、当館の出前授業は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、資料の選定や解説内容など地道に取り組まれ蓄積されてきたものであり、指導要領が改訂になっても博物館ならではの普遍的な学習は提供できてきたのは事実である。

しかしながら今回の実践を通して、たとえ2時間であっても学習者の主体性・対話性を引き出す問題解決型プログラムにしていこうと、より資料の魅力に気づき、深い学びができることを実感した。また、これまで学習者が自ら気づけるのを余計に説明していたり多様な発想を生かしたり引き出したりできていなかった部分もあったのではないかと感じている。

まだまだ粗削りで、時間配分や人数など環境に左右されるところも多いので今後更に見直しが必要であるが、完成度を高めプログラムとして確立させるために実践を重ねていくつもりである。

